

第4学年 音楽科学習指導案

- 1 題材 音の重なりを楽しみながら合奏しよう
- 2 教材 「茶色の小びん」(芙龍 明子作詞 ヨセフ ウィンナー作曲 浦田 健次郎編曲)
- 3 指導に当たったの考え方

本学級の実態

音楽に合わせて歌ったり、リコーダーで演奏したりすることが大変好きで、興味・関心をもって表現の活動に取り組む姿が見られる。
 既習曲「パレードホッポー」や「きゆう友」などにおいて、重なり合う美しさを感じ取ることはできるようになっているが、表現の工夫をして合奏をつくりあげていく経験はほとんどない。
 歌に合わせてリコーダーを演奏することはできるようになっているが、楽器の音色や音の重なりにつけて演奏するまでには至っていない。

このような教材で

楽曲「茶色の小びん」は、ジャズを原曲とする明るく楽しい合奏曲である。特徴的な要素を分析すると以下のように考えられる。

主旋律：鍵盤ハーモニカによる a - a' - b - b' のはずんだ旋律が明るさや楽しさを表現している。

対旋律：鉄琴やリコーダによる対旋律が明るさや楽しさを強調している

副旋律：木琴による和音が主旋律に響きを加え明るさや楽しさを助けている。

ベース：オルガンの低音のくり返しが全体を引き締めている。

リズム：大太鼓と小太鼓のバッテリー奏が全体を支えている。

音色：鉄琴や木琴のマレットを使い分け、柔らかい音や鋭い音を選んで演奏することで、明るさや楽しさを表現できる。

奏法：鍵盤ハーモニカやオルガンをやマルカートに、鉄琴やリコーダーをレガートに演奏することで、明るさや楽しさを表現できる。

本教材は、主旋律と対旋律の奏法を工夫したり、鉄琴や木琴の音色を工夫したりすることで、互いの音を聴き合いながら合奏をつくりあげていくのに適した教材であるといえる。

このような指導・支援で

つかむ段階では、まず、明るく楽しい感じの曲想をとらえさせ、合奏づくりへの意欲を喚起させるために、範奏 CD を聴かせたり、主旋律を歌詞唱させたりする。次に、主旋律を正しく覚えて演奏させるために、主旋律部の拡大楽譜を提示し、階名唱をさせる。また、休符やシンコペーションのリズムを正しく演奏できるように、部分的に速度を落として演奏させる。

深める段階では、前時の主旋律にリズム、ベース、副旋律、対旋律と順に加えていき、合奏の構成をとらえさせるとともに、それぞれのパートが重なるたびに響きが豊かになり、明るく楽しい感じに近付いていることを感じて演奏できるようにする。まず、リズムを加える活動では、拡大リズム譜を提示し、手や膝を使ってバッテリー奏をさせてからタンブリンやカスタネットを演奏させる。また、主旋律を聴きながら演奏させることで、拍の流れを感じ取り、主旋律に合わせて演奏できるようにする。次に、ベースを加える活動では、階名唱をさせてから演奏させる。また、主旋律とリズムの演奏と、主旋律・リズムにベースを合わせた演奏とを聴き比べさせることで、ベースの低い音が全体の響きを引き締めていると感じ取らせる。さらに、副旋律を加える活動では、上の音と下の音に分けて階名唱をさせる。また、ベース部の時と同じように聴き比べをさせることで、木琴による和音が響きを加え、明るさや楽しさが増していることを感じ取らせる。最後に、対旋律を加える活動では、鉄琴やリコーダーの明るい音色が明るさや楽しさを表していることを感じ取らせる。

味わう段階では、ふさわしい奏法を工夫することができるようにする。そのために、まず、自分達の演奏と範奏 CD を聴き比べたり、はずんだ感じとなめらかな感じとでひき比べ聴き比べをさせたりする。また、はずんだ感じを出すためにタンギングに気を付けてはっきりと演奏させたり、マレットの使い方を指導したりする。さらに、演奏する人と聴く人に分かれ、工夫して演奏することで2つのふしの重なりが美しくなっていることを感じ取らせる。次にもっとジャズを感じさせるように工夫させる。ここでは、2拍目と4拍目が強拍になっていることが視覚的に分かるようカードを提示し、アフタービートでリズム打ちをさせることで、ジャズのリズムの特徴を体感させるようにする。

指導目標


楽器の音色や音の重なりに関心をもって、意欲的に器楽表現に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
 重なり合う音の美しさを感じ取って、表現の工夫をすることができる。(感受・表現の工夫)
 楽器の音色や音の重なりにつけて演奏することができる。(表現の技能)

4 演奏する内容，演奏する活動，教師の支援の設定

楽曲分析	演奏する内容(メイン サブ)	演奏する活動	教師の支援
曲想 ジャズを原曲とする明るく楽しい感じの合奏曲 主旋律; 鍵盤ハーモニカによる a - a' - b - b' のはずんだ旋律が明るさや楽しさを表現している。 対旋律; 鉄琴やリコーダによる対旋律が明るさや楽しさを強調している。 副旋律; 木琴による和音が主旋律に響きを加え明るさや楽しさを助けている。 ベース; オルガンの低音のくり返しが全体を引き締めている。 リズム; 大太鼓と小太鼓のバッテリー奏が全体を支えている。 音色; 鉄琴や木琴のマレットを使い分け、柔らかい音や鋭い音を選んで演奏することで、明るさや楽しさをより表現できる。 奏法; 鍵盤ハーモニカやオルガンをややマルカートに、鉄琴やリコーダーをレガートに演奏することで、明るさや楽しさをより表現できる	ジャズを原曲とする明るく楽しい感じを合奏で表現する。 主旋律をフレーズのまとまりを感じ取って、鍵盤ハーモニカで正しく演奏する。 対旋律を主旋律とのからまりを感じ取って、鉄琴やリコーダーで正しく演奏する。 副旋律を拍の流れを感じ取って、木琴で正しく演奏する。 ベースをリズムの動きを感じ取って、オルガンで正しく演奏する。 リズムを拍の流れを感じ取って、大太鼓や小太鼓で正しく演奏する。 ふさわしい音色を工夫して演奏する。 ふさわしい奏法を工夫して演奏する。	覚えて演奏する 感じて演奏する 覚えて演奏する 感じて演奏する 合わせて演奏する 覚えて演奏する 感じて演奏する 合わせて演奏する 覚えて演奏する 感じて演奏する 合わせて演奏する 覚えて演奏する 感じて演奏する 合わせて演奏する 覚えて演奏する 感じて演奏する 合わせて演奏する	範奏CD 主旋律部の拡大楽譜 階名唱 部分的に速度を落とす 範奏 対旋律部の拡大楽譜 階名唱 前時の演奏との聴き比べ リズム打ち 副旋律部の拡大楽譜 上と下に分けて階名唱 前時の演奏との聴き比べ リズム打ち ベース部の拡大楽譜 階名唱 前時の演奏との聴き比べ リズム打ち リズム部の拡大楽譜 手や膝のバッテリー奏 前時の演奏との聴き比べ 4種類のマレットの提示 マレットの違いによる音色のひき比べ聴き比べ 範奏CDと自分達の演奏との聴き比べ 奏法のひき比べ聴き比べ

5 指導計画(全5時間)

	つかむ	深める	味わう (本時)
ねらい	明るく楽しい感じの曲想をとらえ、フレーズのまとまりを感じ取って主旋律を歌ったり演奏したりする。	もっと明るく楽しい感じを表現するために、リズム、ベース、副旋律、対旋律を重ね、互いの音を聴き合いながら演奏する。	ふさわしい奏方とジャズを感じを表せる工夫をし、互いの音を聴き合いながら演奏することができる。
主な活動と内容	1 楽曲「茶色の小びん」と出会い、本時学習のめあてをつかむ。 (1) 範奏CDを聴き、明るく楽しい感じの曲想をつかむ。 明るく楽しい感じが表れるようにけんぱんハーモニカで正しく演奏しよう。	1 前時学習を振り返り、学習のめあてをつかむ。 (1) 伴奏に合わせて主旋律を鍵盤ハーモニカで演奏し、前時学習を想起する。 もっと明るく楽しい「茶色の小びん」にするために、リズム(ベース、和音、もう一つのふし)を入れて演奏しよう。	1 前時学習を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。 (1) 対旋律を加えて演奏し、前時学習を想起する。 もっと明るく楽しい感じを表せるように、表現の工夫をしよう。
	2 フレーズのまとまりを感じ取って主旋律を正しく演奏する。	2 一つずつパートを加え、音の重なりを感じながら合奏をする。	2 奏法とジャズを感じを表す工夫をして演奏

<p>(1) 歌詞唱をする。 (2) 階名唱をする。 (3) 正しいリズムで演奏する。 シンコペーションのリズムや休符に気を付けて演奏すること</p>  <p>タンギングや運指に気を付けて演奏すること</p> <p>(4) フレーズのまとまりを感じ取って演奏する。 交互奏 伴奏に合わせて演奏すること</p> <p>3 本時学習のまとめとして演奏し、次時学習について話し合う。 本時のめあてに対する自己評価、相互評価 次時はもっと明るく楽しい「茶色の小びん」にするために、主旋律にリズムを加えること</p>	<p>(1) 主旋律にリズムを加えて演奏する。 手や膝を使ってのバッテリー奏 主旋律を聴きながら合わせて演奏すること</p> <p>(2) ベースを加えて演奏する。 拡大楽譜を見てリズム打ち 階名唱 主旋律+リズムの演奏と、それにベースを加えた演奏の聴き比べ 主旋律とリズムを聴きながら合わせて演奏すること</p> <p>(3) 副旋律を加えて演奏する。 拡大楽譜を見てリズム打ち 階名唱 副旋律を加える前と、加えた後の演奏の聴き比べ 他のパートの演奏を聴きながら合わせて演奏すること</p> <p>(4) 対旋律を加えて演奏する。 拡大楽譜を見て階名唱 タンギングや運指に気を付けて演奏すること 他のパートの演奏を聴きながら合わせて演奏すること</p> <p>3 本時学習のまとめとして演奏し、次時学習について話し合う。 録音した自分達の演奏を聴き、それぞれのパートを加える前と加えた後ではどう違うのかについて話し合うこと 次時は、より豊かな表現をめざし、表現の工夫をすること</p>	<p>する。</p> <p>(1) 奏法の工夫をして演奏する。 主旋律部の工夫 リズム部、ベース部、副旋律部の工夫 対旋律部の工夫</p> <p>(2) ジャズの感じを表す工夫をして演奏する。 アフタービートでのリズム打ち</p> <p>(3) グループで工夫しながら演奏する。 奏法の工夫、ジャズの感じがもっと表れる工夫をしながら演奏すること グループの演奏を発表し、よさを共感すること</p> <p>3 互いの音を聴き合って演奏し、音を合わせる喜びを味わう。 奏法、ジャズの感じを表す工夫をして合奏をすること 録音した自分達の演奏を聴き、音を合わせる喜びを味わうこと</p>
---	--	---

6 本時 9月26日 5校時 音楽室

7 本時の目標

楽器の音色や音の重なりに関心をもって、進んで表現の工夫をしようとしている。(関心・意欲・態度)
重なり合う音の美しさを感じ取って、奏法やジャズの感じを表す工夫をすることができる。(感受・表現の工夫)

楽器の音色や音の重なりに気をつけて演奏することができる。(表現の技能)

8 準備 教師：色分けした拡大楽譜 範奏CD 板書カード 録音機器
児童：鍵盤ハーモニカ リコーダー

